

県外派遣報告書 (一社)栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	第73回 国民体育大会関東ブロック大会	開催地	茨城県ひたちなか市
報告者名	梶 崇司 大山賢史	派遣期間	平成30年8月17日(金)～19日(日)
参加者 (所属都県)	本部: 渡邊整 北島寛臣 神奈川: 加納康平 廣瀬俊昭 村上恵美 埼玉: 眞榮喜工 小柳幸子 山岸大輔 東京: 石鍋光智代 濱雄介 佐藤浩太 栃木: 増淵泰久 梶崇司 大山賢史	関東指名: 小澤勤 谷古宇孝 平出剛 茂泉圭治 群馬: 菊地真吾 穂川苑子 小澤朋克 千葉: 中嶽希美子 山崎敬次郎 中島弘幸 山梨: 河野仁 佐田幸一 前田菜津子 茨城県審判員	

【審判会議内容】 小澤勤 谷古宇孝 平出剛 茂泉圭治

・映像を確認しながら、3POのメカニクスについての講義を行った

〇トスアップ

CC: トスアップ

U1: ミッドラインを縦に割ってテーブルサイドの選手の把握
(プレーヤーと重ならない範囲でポジションアジャスト)

U2: ミッドラインを縦に割ってテーブルサイドのオポジットの選手の把握

ジャンプボールから失敗するとチームからの信頼は低くなってしまふ
低いところからスタートするのは良くないのでスタートを大切にす

* ジャンパーの3タップバイオレーションがあった場合
スローインの再開場所はどうか? → 各自で確認

〇チームファールの確認

シグナルをだすとよい ボーナス、ファウルの数を逃さないようにクルーで確認する
ローテーション中にパートナーに声で連絡してもよい

〇ニューリード(NL)への走り方

NLに走る: ミッドラインを縦に割ってC側でボールが運ばれている → 基本クローズダウンへ
ボールがステイした時にスムーズにスイッチできるように

ミッドラインを縦に割ってT・L側でボールが運ばれている → 基本セットアップポジションへ

〇OOBのヘルプ等

①訂正 ②ヘルプの2通り

訂正: 120%の情報を持ってパートナーに伝える パートナーは受け入れる
* 素早くパートナーに向かう → 該当のレフリーは受け入れる → ピッ!
間を大切にす

* 120%の情報があれば必ず訂正に飛び込む
試合終了後のミーティングで「実は・・」などは×

ヘルプ: LがCにヘルプを求めることに対して、恥ずかしがらず、推測で出さずヘルプを求める
エンドラインだけではなく、サイドライン、いずれの場所でも必要なクルーワーク

* ピッ! (ヘルプを求める) → 該当のレフリーは ピッ! (1つの笛でよい)
間を大切にす

○コーナー3Pショット

Lは体の向きをベースラインと平行にしてTに任せっきりにならないように確認をする
体の向きも考えて、平行にすることでより「ここを見てますよ」といった様子がTに伝わる

* リバウンドのカバーをCがしているので心配せず行う

○ラストショット

①4. 9秒以下はC

②5. 0秒以上は基本はテーブルサイドのオポジットのレフリーがどんな状況でも最後まで時計の管理
* 俺が持つ！よし、頼む の確認がお互いできるとよい

* クルーとしては「ファウルはないと思うけどショットはどうです？」などヘルプすることも大切
ぎりぎりのケースは感性や経験もとても大切
点差が何点開いていても時計は常に大切にす

○3or2

誰に何を伝えたいのか、左右の手を使い分けて2点または3点をきっちり伝える
L→T だけではなく、T⇄Cも必要。TOにも見やすいほうの手を使う。

* 2点か3点か割れてしまった場合

① 次にボールがデッドになった時に正しく訂正

② 4Q 2:00 を切ってボールがデッドになった時はすぐに訂正
割れた場合にきちんと正しいものを選択できるようにする

○ノーワーキングエリアでの判定

判定をしてはいけないと思っている人がいるが、判定して問題ない。

* そのエリアに立ち止まり続けるのはよくない

* スイッチの途中でスピードのある選手が飛び込んでくることなどに対して、
ディフェンスのぶつかり等のファウルがあればスイッチの途中でもコールして問題ない

* ペイントに注意を払うことを大切にする

○ローテーション中のターンオーバー(TO)

ローテーション中のTOが起きた場合はリカバリーすることをまず考える
空いてるポジションを埋めることを優先する

* クルーを指で指示するのではなく、空いているポジションをまず埋めることを3人が考える

* どんなクルーでも必ず起こりえることである

OT・C・Lそれぞれの動き

- ① Tレベルは基本低くポジションをとる 3Pショットに対してTレベルを特に下げて確認する
T→Cへローテーションの際、ピックザペイント(ペイントに注意を払うことが大切)
- ② Lは積極的なスイッチサイドを起こして問題ない 必要な回数だけローテーションをする
自分のリズムでテンポよく歩き、走らない
ローテーションの際、1番まで行かず2番～2番にするなど工夫は必要
1番:セットアップポジション 2番:クローズダウンポジション
- ③ C ストロングセンター
強いセンターがいるクルーは崩れることなく強いクルーになる
ブロック・チャージやブロックショットなどでインパクトの大きいものであればパートナーの
笛が鳴ることは当然あるものとして理解しておく

* 二人でピッ! → 笛をホールド → アイコンタクトをする → どちらのファールか? プライマリーは?
を確認して、「俺がもって行くよ」 パートナーと確認することが大切

センターセンター間の際、走りながら(Cから見て)手前、真ん中、ミッドラインより奥の選手
いずれも捉えておく

OUF

- UFを吹くことはできるが、クライテリアのどれに当てはまるのかを考える
ノーマルファールをだす → UFのシグナルを出すのがよいかもしれない
- CCが決めるのでもなく、多数決でもなく、プライマリーが優先できることがよい
- C1 ボールにプレイしない 正当なバスケのプレイではない
 - ① ユニホームを掴んで引っ張る
 - ② 肘 意図的かどうかではない
 - C2 ハードファウル
 - C3 オフェンスが進行するなかで妨げるだけの必要のないファウル
 - C4 ラストプレイヤー ボールのコントロールがあるのか、ないのかをどうみるか。
 - C5 ラスト2ミニッツ
シューターの確保を必ずする
* UF + シューター確保(番号を言う) + テーブルレポート + シューターをさらに言う
様々な要因でシューターを落としやすい
例):ベテランレフリーと同じクルー(その中でUFで吹く、労力があること)選手のつめより
周りの歓声など(「ノイズが入る」という表現をする)

* 多くの場合説明を求められることがある
どのクライテリアに該当するか説明できるようにすることが大切

県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日：平成30年8月18日（土）

審判員名	梶 崇司	相手審判	CC: 眞榮喜工(埼玉) U1: 小澤朋克(群馬)
カード	山梨県	対	東京都 成年男子1回戦
◇ミーティングの内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・終盤まで競ったゲームであったが、全体的には3人でよく吹き切った。 ・DFの変化にきちんと対応していた。 ・Cでのポジションアジャストが若干遅い(3vs2の確認に精一杯になり、コンタクトの判断ができなかったケースあり)。 ・声を使ってゲームをリードしていこうという姿勢が見られて良かった。 <p style="text-align: right;">《審判主任》 茂泉 圭治 氏(指名)</p>			

割当日：平成30年8月19日（土）

審判員名	梶 崇司	相手審判	CC: 渡邊整(本部) U1: 濱雄介(東京)
カード	茨城県	対	山梨県 成年女子準決勝
◇ 試合 ミーティングの内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・3人でメカの共通認識を持ってゲームに入っており、ローテンションもスムーズだった。 ・取り上げ方やプレゼンも分かりやすく、落ち着いている。 ・ポストでのDFのロックについて、マージナルと見ても良いものがあった。 ・ライン際でLに向かっていくDFの悪い位置からのコンタクトについて、プレイの始まりからアングルが取れているTからコールしたほうが良いケースがあった。 <p style="text-align: right;">《審判主任》 古畑 香子 氏(茨城)</p>			

県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日：平成30年8月18日(土)

審判員名	大山 賢史	相手審判	CC: 茂泉圭治(指名) U1: 佐田幸一(山梨)
カード	群馬県	対	茨城県 成年男子1回戦
◇ミーティングの内容			
<p>茨城85-52群馬の大差の試合であった。選手、コーチともにゲームに対してのレスポンスが素晴らしく、我々のゲームの運営、判定に対して良好な関係を保つことができた。</p> <p>クルーとしてもクロックの管理、3or2協力をして対応した。プライマリーについては課題が残るところではあるが、良いクルーワークであったと思う。ローテーションの途中にターンオーバーがあり、メカニクス崩れがあったが、ミーティングの通りポジションを素早くとり対応することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Cが積極的関わっていき、クルーとしてよく機能していた。 ・大きな問題なく、よいクルーワークであった。 <p style="text-align: right;">《審判主任》 谷古宇 孝 氏(指名)</p>			

割当日：平成30年8月19日(土)

審判員名	大山 賢史	相手審判	CC: 武藤陽子(茨城) U1: 佐田幸一(山梨)
カード	群馬県	対	茨城県 少年女子決勝
◇ 試合 ミーティングの内容			
<p>東京都85-56千葉県の大差の試合であった。第1Q出だしから～東京都のシュート率が素晴らしく前半でリード大きく広げる展開となった。お互いの手の使い方について、ファウルとして取り上げるべきか否か判断に迷うところもあり、多くのファウルがあった訳ではないが、上手にメッセージとして伝えることが出来なかった。</p> <p>クルーとして3人が落ち着いて試合を進めることができた。メカニクスについてもCがプレーにステイし、リードのローテーションの最中でも上手く判定につなげることができた。クルーでより声をつかってゲームを引っ張ることができるとより良かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロッキングorチャージ のところでより判定の精度あげることができると良かった。 ・声を使い試合、クルーを引っていて良かった。 <p style="text-align: right;">《審判主任》 茂泉 圭治 氏(指名)</p>			

【感想・県内審判員へ伝えたいこと】

A級になってから毎年参加しており、今回で6回目となりますが、各都県協会あげての大応援団を擁する都県もあるなど、他の関東大会とは雰囲気やゲームの厳しさも違う緊張感のある大会であることは毎年変わりありません。周囲からのノイズも多い中、どのように自分の力を出していけるかが問われる大会です。参加当初は、大会や会場の雰囲気に押され、ゲームにマッチした判定ができないこともありましたが、年々、冷静さや落ち着きを持ってプレイを判断できるようになってきたことを感じています。

1回戦から3POであり、審判会議でのレクチャーにおいても、基本的な約束事について映像を用いながら説明がありました。クルーでメカニクスの共通認識を持ち、個々人がベーシックをきちんと実践していくことが非常に重要だと改めて感じました。自分の経験も踏まえ、3POメカについて、ベーシックをきちんと身に着け実践していくことや、レクチャーで説明のあった内容を正しく県内に伝えていきたいと思えます。

最後になりますが、茨城県の皆様には3日間大変お世話になりました。ありがとうございました。

梶 崇司

本国体の予選ということもあり、各県の応援や関係者の厳しい視線がある中、とても緊張感のある大会でした。ゲームはクルー、チームの協力もあり、二日間ともコーチらと握手をし大きなトラブルなく終わることが出来たのは大変良いことで、自信にも繋がりました。

メカニクスを徹底し、それを実践していくことでスムーズにゲームが運営され、間違った方向に進むことはありませんでした。他の試合全体を見ても、同じように感じ、その大切さと判定の精度を高めるメカのすごさを改めて実感することができました。2日間ともU2を担当し、今後は私がCCになった際に、どうクルーと協力していくかを課題として、取り組んでいきたいと思えます。

最後になりますが、今回の派遣に際し、ご配慮頂きました渡邊審判長をはじめ県内審判員、茨城県審判員、大会役員各位に心より感謝致します。

大山賢史